

マルハニチログループにおける フードディフェンス（食品防御）の考え方

= なのによりも大切なものは、
人と人の輪 =

食品安全とフードディフェンス（食品防御）の関係

食品安全 食品防御

「人が安全にものを食べることができる」ための具体的な手立て

食の安全3要素

Food Security
食品安全保障

Food Safety
食品安全

Food Defense
食品防御

食品安全 Food Safety

- 検査などで対応することが比較的容易

- システムの不全
- 想定している危険物
- 論理的にあり得る
- 偶発的
- 低濃度
- 監督官庁

食品防御 Food Defense

- 悪意を持って、予想外の攻撃を仕掛けてくるため予測・対応は難しい

- システムへの攻撃
- 想定していない危険物
- 論理的にあり得ない
- 意図的
- 高濃度
- 犯罪捜査

食品安全保障：
安全な食品の安定した供給の確保

食品安全：
自然に起こり得る、意図せずに起こる食品汚染からの保護

食品防御：
意図的な食品汚染からの防御

アクリフーズ「農薬混入事件に関する 第三者検証委員会」社会への提案

食品供給者（食品メーカー）は、「故意に食品に危険物を混入したり、汚染しようとしたりする人が、外部にも内部にもいるかもしれない。」との厳しい認識に立って、普段から食品防御を意識した対策や行動をとるべき時代となった。

アクリフーズ「農薬混入事件に関する第三者検証委員会」最終報告より抜粋

対策における人間性の考え方

性善説

人間の本性は基本的に善である。（孟子）

性悪説

人の性は悪なり、その善なるものは偽なり（人間の本性は欲望的な存在にすぎない）。（荀子）

性弱説

人間の本性は基本的に善であるが、さまざまな誘惑や心の迷いに煩勞される。**環境の変化で心が弱ったときに、出来心で犯してしまう**罪を会社内の体制で防ぎ、負のスパイラルに迷い込む人をなくしていく。

食品の安全管理とフードディフェンス（食品防御）の違い

分類	基本的考え方	問題点	対応	防御
食の安全	性善説	<u>システム内のエラー</u> ヒューマンエラー、 システム内のエラー	検査 摘発、改善	比較的容易
食の防衛	性悪説	<u>社会の崩壊が目的</u>	リスク回避 有事対応	極めて困難

フードディフェンス（食品防御）



性悪説の考え方

フードディフェンス（食品防御）の 内部関係者に対する考え方

食品への攻撃者	攻撃への動機	計画性	犯行者	危害の程度	犯罪の種類	考え方	対策
部外者	社会の崩壊 （イデオロギー的に 動機付けられる攻 撃）	高い	複数犯	高い	殺人・傷害 （食品テロ）	性悪説	セキュリティレベルの向上 （侵入防止措置）
	会社への恨み 会社に勤める個人に 対する恨み	低い（出来心）	単独犯	低い	偽計業務 妨害		セキュリティレベルの向上 （侵入防止措置）
内部関係者 （従業員、 派遣社員）	会社（上層部）への 不信・不満	低い（出来心）	単独犯	低い	偽計業務 妨害	性弱説	コミュニケーション 教育・研修（心） 抑止力の向上



内部関係者に対しては性弱説

従業員の皆様に対する フードディフェンスの考え方

悪いことをしようとする気持ちはないのに、
誘惑に負けてしまうという弱さから社員を
守るための防御対策を進めてまいります。

コミュニケーションを大切にし、風通しの良い 職場環境をつくります。

一人で悩まず……



皆で解決



= 目指すは、昔の下町のようなコミュニティ =

昔は人間関係が強く、例えば近所のおじさんやお兄さんといった、異なる世代間の人々が、社会規範や道徳に反する子に対して、自分の親がわりとなって叱ってくれたものでした。

マルハニチロのフードディフェンスへの取り組み

マルハニチログループは、

「**フードディフェンス目標**」を掲げ、

「**フードディフェンス方針**」に則り、

「**フードディフェンス管理基準**」を遵守し、

活動に取り組んでいます。

フードディフェンスの目標と方針の制定

フードディフェンス目標

「不審者による意図的な食品汚染を防御する」

フードディフェンス方針

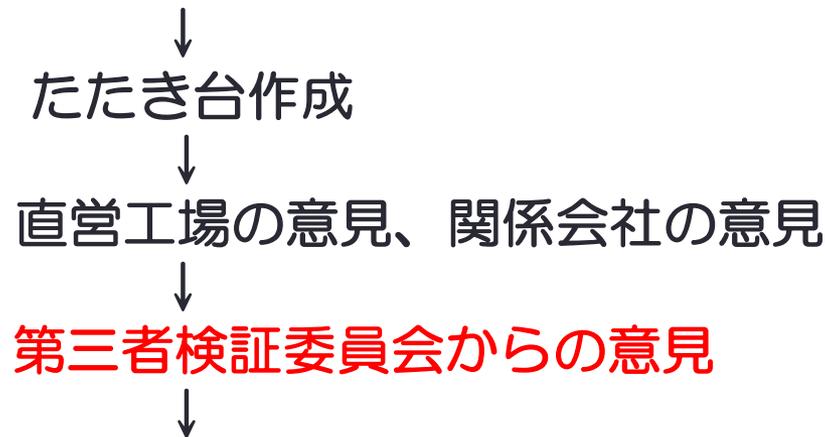
1. コミュニケーションを大切にし、風通しの良い職場環境をつくります。
2. お客様に提供する食品の安全を守るため、フードディフェンスに対する意識を高めます。
3. 不審者による意図的な食品汚染を防御するための仕組みを整備し、運用します。
4. 不審者による意図的な食品汚染を許さない施設の整備に努めます。
5. フードディフェンスに関わる活動の継続的改善を推進します。

マルハニチログループ
「**フードディフェンス管理基準**」を設けました。

不審者（部外者、内部関係者）による
意図的な食品汚染を防御することに
取り組みます。

フードディフェンス管理基準の制定

- 厚生労働科学研究補助金 食品の安全確保推進研究事業における
今村教授研究班
「食品工場における人為的な食品防止に関するチェックリスト」
「食品防御ガイドライン（生産工場版）」
- AIBフードディフェンスチェックリスト
- 国内知見者の文献 等
- 国内各企業の取り組み資料 等



フードディフェンス管理基準 制定

フードディフェンス管理基準の項目

フードディフェンス管理基準

= 主な項目 =

《人的要素（部外者、内部関係者）》

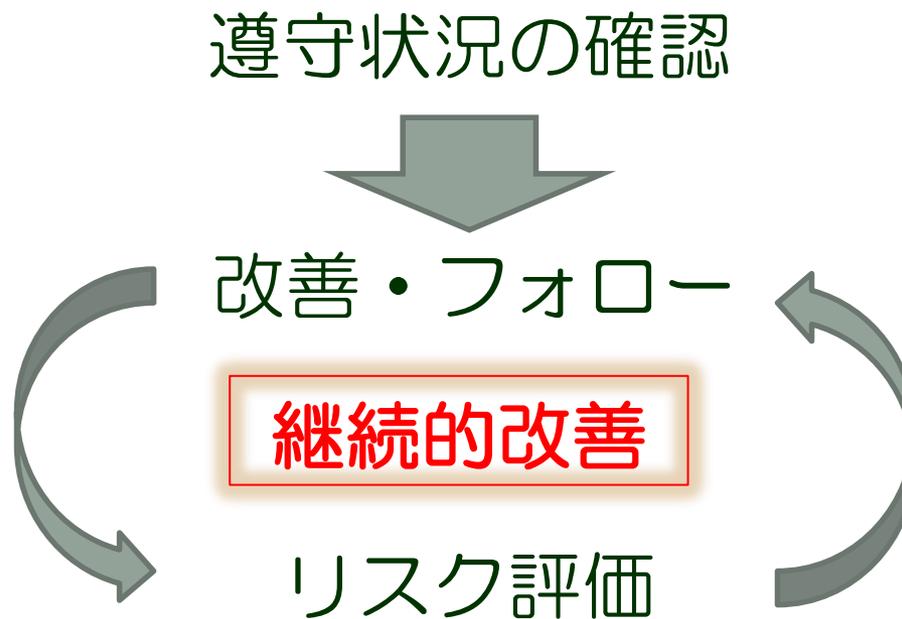
- コミュニケーション
- 従業員教育、意識付け
- 持ち込み物制限
- 薬剤管理

《施設管理》

- 鍵の管理
- 敷地内、工場建屋内、製造区域内へのアクセス制限
- 定期的な巡回、安全安心カメラの設置

フードディフェンス管理基準の運用

フードディフェンス管理基準
(直営工場、国内・海外グループ会社での運用)



安全安心カメラの設置目的

1. 作業現場の可視化
 - 製品の不具合時による検証
 - 労働災害時の早期発見
2. 安全に食品が作られていることの保証
3. 不審者の侵入行為の抑止、もしくは食品汚染行為の抑止